

2025 年度第 3 回社会・環境部会運営小委員会議事メモ（案）

2025 年 10 月 20 日
社会・環境部会 事務局長
山本 隆一

1. 開催日時
2025 年 10 月 20 日（月）10：00～11：40
2. 開催場所
Zoom によるリモート会議
3. 出席者
土田部会長、佐田副部会長、寿楽委員、風間委員、布目委員、高木委員、
小林委員、木藤委員、竹田委員、龍原委員、吉永委員、山本事務局長
4. 配付資料
25-3-0 議事次第
25-3-1 2025 年度第 1 回社会・環境部会運営小委員会議事メモ案
25-3-2 部会等運営委員会の状況について
25-3-3 2025 年度予算執行状況等について
25-3-4 マスメディアとの関係構築
25-3-5 ポジション・ステートメントについて
25-3-6 部会 HP について
25-3-7a 2025 秋の大会における全体会議について
25-3-7b 2025 秋の大会における部会企画セッションについて
25-3-8 2025 年春の年会における企画セッションについて
5. 議事概要
部会長挨拶の後、議事次第に沿って議事が進められた。
 - (1) 部会長挨拶

土田部会長より、簡単な挨拶があった。
 - (2) 前回議事メモ確認

山本より 25-3-1 に沿って前回の議事について紹介した後、部会長より 若干の振り返りがあり、次週位までのコメントがあれば山本宛申し出るよう指示があった。また、佐田副部会長から運営体制の見直しが提案され、企画小委内

にある「勉強会」と「シンポジウム等企画具体化チーム」は「企画検討チーム」として統合することが了承された。

(3) 部会等運営委員会の状況について

木藤委員より資料 25-3-2 に沿って紹介があった。主な点は以下の通り；

- ① 前年度からの引継ぎ事項として、前年度の活動実績を共有したとのこと。また、参加者の要望に応え、来年春の年会以降は対面開催、2028 年以降については大会の開催循環を再検討するとのこと。
- ② 秋の大会の収支は速報値として、参加者数 1488 名、発表件数近年の実績を上回る 726 件、出展数も過去最多の 38 件で約 2000 万円の黒字とのこと。
- ③ 一方で、学生連絡会のポスターセッション会場が狭かった様子。
- ④ 参加者アンケートでは受け付け位置が分かりにくかった、等の意見があったとのこと。
- ⑤ 次の春の年会（熊本）は 3 月 11 日～13 日で開催し、初日の 14 時 24 分（東日本大震災発災時刻）にセレモニーを開催する可能性ありとのこと。
- ⑥ 開催循環や年会大会開催内容等について各部会等から意見が欲しいとのこと。
- ⑦ 2027 年春の年会は東京科学大学、秋の大会は北海道大学で開催予定とのこと
- ⑧ 2026 年春の年会で初日にセレモニーを開催するので、当日の全体会議は 11 時半～12 時半、企画セッションは 12 時半～14 時、とする方向とのこと。

(4) 定例報告等

① 2025 年度予算執行状況など

高木委員より 25-3-3 に沿って説明があった。特に質問もなく、了承された。

② マスメディアとの関係構築について

風間委員より 25-3-4 に沿って説明があった。その中で、会場予約の状況、講師の確定、費用の微修正、等の説明があり、了承された。

③ PSWG の活動状況について

山本より 25-3-5 に沿って PS003 の英語版掲載準備状況等について紹介した。部会長より、PS を英語版で発信することは当会としても有意義とのコメントがあった。

④ 部会 HP について

木藤委員より 25-3-6 に沿って当部会への勧誘ページについて若手の

勧誘を目指した提案があった。概ね了解されたが、部会長他より、ベテランも併せて勧誘するような表現も欲しい、との要望があった。

(5) 2025 年秋の大会報告

① 全体会議について。

佐田副部会長より資料 25-3-7a に沿って簡単な紹介があった。その中で、相変わらず出席者が少ないことが報告され、年会・大会の場以外に設定する可能性も含めて、今後、どうしていくべきか検討していくこととなった。(概要については配布済みの「2025 年秋の全体会議メモ」参照)

② 部会企画セッションについて

佐田副部会長より資料 25-3-7b に沿って紹介があった。広い会場であったが、聴講者も多く、盛会だったとのこと。また、事務局を通じて、電気新聞より抄録提供の要請があり、対応したとのこと。

(6) 2025 年春の年会における企画セッションについて

佐田部会長より資料 25-3-8 に沿って紹介があった。意見交換の結果、研究専門委員会との合同セッションとして、「風評（被害）を総合知から再考する」といった表題で提案することとなった。

以上